（試験研究課題年次別解説集様式第 3-3 号：完了課題）

伊豆特産海藻の増養殖研究

（予算区分　研究費　研究期間　2020～2022 年度）

担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場　角田充弘

【研究の背景とねらい】

・近年、全国的に海藻の生育不良が問題となっており、伊豆地域においてもヒジキ及びテングサの生産量が減少しています。また、カジメなどの海藻の着生状況が変化しており、磯根漁業への影響が懸念されています。

・本研究では、現在の伊豆半島の海藻着生状況を把握することで、今後の海藻資源及び採介藻漁業の動向を探る材料とします。また、ヒジキ及びテングサについては生産の安定・増大を目標として増養殖技術を開発します。

【研究成果】

・３年間の聞き取り調査においてテングサは西伊豆地区、ヒジキ、カジメ、ワカメ、モク類は伊豆半島各地で着生の減少が明らかになりました。

・生育に適した場所で、スポアバックによる播種試験を行った結果、スポアバックの直近の沖側 1m、2mに設置した建築ブロックにヒジキの着生を確認できました(図 1)。

・種苗生産のためにヒジキの卵の採取に成功し、また、その採卵数は 5 月中旬から増加し、5 月末に最大、6 月中旬にかけて緩やかに減少することが明らかになりました。

・栄養塩のモニタリングのため、伊豆西岸（土肥）と伊豆東岸（白浜）で月に 1 回の採水を行った結果、2020 年は土肥の栄養塩濃度が白浜よりも低かったのですが、その後 2021 年になると両者の差は小さくなり、2021 年から 2022 年にかけて両者とも濃度が減少傾向にあることが明らかになりました。

・テングサの生育不良が顕著な伊豆市土肥の海域で農業用肥料を用いた施肥試験を実施した結果、施肥による生長促進が可能であることが明らかになりました(図 2)。

・生産したテングサ種苗を 2020 年 6 月から 9 月、11 月から 2021 年 5 月に天然海域へ設置し、生育状況を観察した結果、8 月～2 月に移植した種苗では生長が確認されました。

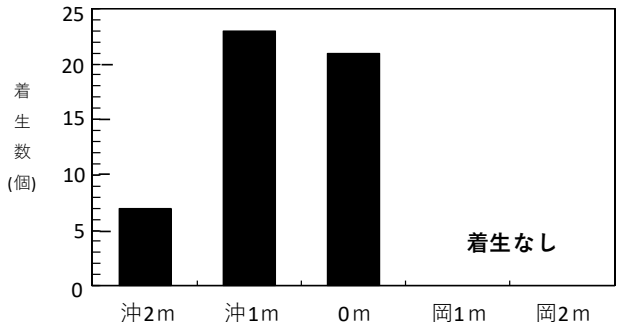

図 1　ヒジキの着生状況

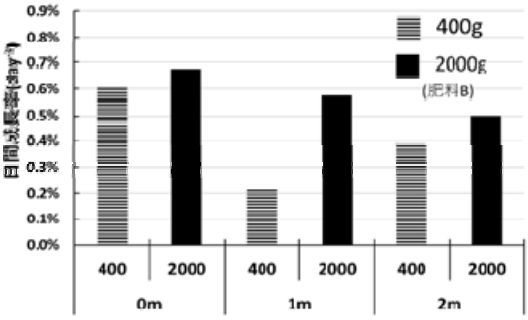

図 2　テングサへの施肥試験

［研究成果の普及方法］

・作成した海藻聞き取りマップを漁業関係者に情報提供します。伊豆東岸ではテングサが増加している地区があり、今後の採取の促進が期待されます。

・野外試験は漁業関係者と情報交換をしながら実施しています。土肥の増殖試験の成果は漁場環境が類似する伊豆西岸の仁科などテングサの主産地への普及が期待されます。

・増殖の要望があった地区にて現場環境を調べ(水温測定等)、ヒジキの増殖適地であるかを判断し、適地であった場合、スポアバックによる増殖を試みます。

（作成　2023 年 3 月）